

教 育

問 答

氣を強くするには

倉 橋 惣 三

「どうも弱蟲で」

「それはいけませんな。しかし、そんなに無理は一體どんなでいらつしやいますか」

「なんの本でしたか、子どもに自信力をつけると書いてありましたが、それがございませんで」

「自信力ですか。それは大切ですね。ところで、たとへば」

「なんでも新らしいことは、僕出来ないと申しまして、試みようとしませんのです。」

「さういふ時、どうなさいます」

「叱ります」

「たと叱つても」

「あんまり、おれつたくなりますので」

「叱つてから」

「仕方ございせんから、そのまゝにして置きます」

「それはいよくいけませんね」

「いゝえ、時には手傳つてしてやります」「手傳つてですか。手傳はないで、おさせになつたら」

「でも」

「負けてはいけませんね。どうしてもやらせるんですよ。いつまでかゝつても」

「さようでせうか」

「たとさうする譯にもいきませんが、きつとあなたに出来るからと、勵ますのです」

「出来るもありませんから」

「おや、お母さまが先づ弱氣ですね。」

「それでは駄目ですよ。」

「でも」

「とても出来ないと思ふことは、初めから持ち出さないことです。すれば出来ると思ふことは、お母さまが先づ確信をもつてか

國民學校への心準備

附屬幼稚園 菊池ふじの

大きい組の御子さんはもううちき國民學校に行かれます。こゝ二ヶ月ばかりの間に、お母様方は、お母様の心意氣のは入るか、は入らないかによつて、お子さんは如何に違ふものであるかと云ふことを身をもつて體驗せられた筈です。早い話が國民學校の試験を受けさせ様として、一ヶ月位みづちりとお母様が心遣ひをせられたところが、受持の先生からも驚かれ、お母様自身もそのしつかりして來られたのに驚かれた例が一二に止まりません。この短日月に於てさへその相違が大きいのです。これを御子様の成年期までの長い間、御家族殊にもお母様の心意氣が非常に影響することは火を見るよりも明らかなことであります。

いま御子様は國民學校へ進まれやうとしてゐます。手を引いてゆくやうな細かな指導が必要か否かは、御子様の性質によることであり、又お母様の御意見にもよることであり、一樣には申せないのですが、國民學校の凡ての學科に就ての大意をつかんでゐることは是非とも必要

かるのですよ」

「さようですか」

「それでも充分出来ない時は、出来たところまで置いて置いて、あとの部分を次の時にゆづるのです。なるべく近い時につづりさせるのです。つまり、半分は自信を持たせる譯で」

「どうして、あんなに、引込み思案なのですか。私がこんなに、がみ／＼屋ですのに」

「がみ／＼屋さんであらうつしやいますか。お母さまの教育ではないから、それは別問題ですが、若し、がみ／＼屋さんであらうつしやるのでしたら、それが却つて坊ちゃんを弱氣にしてゐませう」

「あら、どうしてとささいます」

「ハ、ハ、ハ、ハ。がみ／＼屋さんは、人の力を信じませんからね。人の力を信じてやらないで、その自信力を養ふのは無理ですから」

「……………」

「その辭、お子さんに自信力を出させ得ることの自信を、御自身持つてゐらうつしや

なくて……」

「……………」

「お子さんをお信じなさいよ。といひませうか。御自分の教育の成功に自信をお持ちなさいよ。といひませうか。どちらにしても、自信のみが自信を養ひ、信ぜられることによつてのみ自信が出来るといひませうか。……………えらい、むつかしい言ひ方ですが」

「分りましたとさいます」

「さう感心して頂いては困りますがね。」

「いゝえ、つまり私が、子どもに要求するばかりで、先づ信じてやるのが足りなかつたのでございます。」

「あまりがみ／＼いはないで、ちつと見てゐるといふのも、つまり信じてやることです。」

「はあ。」

なことでありませう。お母様の、無關心か、又は大意なよんでゐられるか否かによつて、御子様の御成育の上に如何に相違が生じて来るかと言ふことは申上げるまでもありません。

國民學校の學科課程を心得ることは、順序が逆になりますが、つまり國の教育方針の奈邊にあるかといふことを把握することにもなるのです。その上、教育の實際方法に就ての細かい心遣ひが分るのです。

ですから是非とも國民學校初等科の全書を繙いて御覽下さい。

ヨイコードモ(修身)ヨミカタ(國語)コトバノオケイコ(國語)カズノホン(算數)自然の觀察(理科)ウタノホン(音樂)デホン(習字)エノホン(圖畫・工作)これ等の本を開いて見ますと、よく分ります。開くまでは一寸おつくうにも感じますが、開いて見てよかつたと思はれるに違ひありません。

さうして得られた教育感を絶えず御子様の上に發散して行かれたら、御子様も仕合せ、學校も教育効果が上り、従つて親御さんも張り合ひが有りになることです。

只今では教科書も切符制で、書店に行けばいつでも買へるとはいへませんが、お知り合ひの方の一寸拜借しても出来ることです。